

## ILSI Japan 活動報告<2019>

### バイオテクノロジー研究会

1, 2 月	<p>1. 2019 年度 第 1 回目会議を 1 月 24 日に開催</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告書 第 42 号が 1 月 21 日に発刊、ERA プロジェクト調査報告 第 43 号の勉強会：  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。</li> </ul> </p> <p>(2) GM 微生物食品について：  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3/18 「組換え微生物を用いた高度に精製された添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方について」ワークショップ開催。 準備状況について共有化。</li> </ul> </p> <p>(3) GM 作物について：  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ERA 調査報告書特別号「日本における GM 作物の ERA の発展」林先生による報告会は来春 4/26 に予定。</li> <li>・ 2019 IS Biosafety Research (旧称：ISBGMO) 準備状況報告。</li> </ul> </p> <p>(4) FY2019 活動助成金通過見込みについて  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 件の助成金が請求額通り通過する予定であることが報告された。</li> </ul> </p> <p>(5) そのほか  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 橋本名誉部会長が TC34/SC16 国内対策委員会 GMO 分科会の委員となることが決定された。</li> </ul> </p>
3, 4 月	<p>1. 2019 年度 第 2 回目会議を 3 月 11 日に開催</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告書 第 43 号を 4 月発刊、ERA プロジェクト調査報告 第 44 号の勉強会：  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。</li> </ul> </p> <p>(2) GM 微生物食品について：  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3/18 「組換え微生物を用いた高度に精製された添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方について」ワークショップ準備状況について共有化。</li> </ul> </p> <p>(3) GM 作物について：  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ERA 調査報告書特別号「日本における GM 作物の ERA の発展」林先生による報告会 4/26 の準備状況報告。</li> <li>・ 2019 IS Biosafety Research (旧称：ISBGMO) 準備状況報告。</li> </ul> </p> <p>2. 「組換え微生物を用いた高度に精製された添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方について」ワークショップを 2019 年 3 月 18 日に明治大学駿河台キャンパスアカデミーコモンで開催。      産官学 46 名参加 (ILSI Japan 2019 年度活動予算)。      高度精製添加物および食品の安全性評価において科学的な見地からの課題を産・官・学で共有化、議論。今後協働して取り組むことが確認された。      「高度精製添加物・食品の法制度」      厚生労働省医薬・生活衛生局食品基準審査課      医系技官・バイオ食品専門官 三橋康之氏      「高度精製添加物・食品の安全性評価の考え方」</p>

	<p>明治大学農学部農芸化学科 中島春紫教授 「申請の現状と今後の課題」 ILSI Japan 協和発酵バイオ㈱ 森下幸治氏</p> <p>3. ISBR2019（タラゴナ、スペイン）及び本会議後に開催されたワークショップへ先生を派遣。 「The recent regulatory framework of genome editing organisms and foods in Japan」 農研機構 田部井豊先生、筑波大学 大澤良先生 「Comparison in mutation frequency among wild types, tissue cultured mutants, genome-edited mutants, and transgenic lines in rice」 筑波大学 津田麻衣先生 「Recent regulatory improvement for ERA of GM crops in Japan」 筑波大学 大澤良先生 「Transportability of data for ERA of GM crops in Japan」 ILSI Japan バイエルクロップサイエンス 後藤秀俊氏</p> <p>4. ERA 調査報告書特別号「日本における GM 作物の ERA の発展」を 3 月発刊。 発刊記念講演会報告会を 2019 年 4 月 26 日に学士会館で開催。 産官学 48 名参加。林先生の長きにわたる OECD での活動、今後の展望を含め特別号に沿ってお話された。大澤先生による発表の後フリーディスカッションを行った。 「日本における GM 作物の ERA の発展」 ILSI Japan コンサルタント 林健一氏 「日本における遺伝子組換え作物の生物多様性影響評価のこれから」 筑波大学生命環境系 大澤良 教授</p>
5, 6 月	<p>1. 2019 年度 第 3 回目会議を 5 月 30 日に開催 (1) ERA プロジェクト調査報告書 第 44 号を 5 月発刊、ERA プロジェクト調査報告書 第 45 号の勉強会： ・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 (2) GM 微生物食品について： ・ 3/18 「組換え微生物を用いた高度に精製された添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方について」ワークショップ報告書執筆状況について共有化。イルシー誌 8 月号に掲載予定。 (3) GM 作物について： ・ ISBR2019（タラゴナ、スペイン）及び本会議後に開催されたワークショップ派遣者報告書について： 報告書を ERA 特別号としてを ERA 第 45 号と同時に発行を目指し準備中。 ・ ゲノム編集技術に関する内部勉強会について： 次回研究会(8 月 8 日)に開催することに決定。 (4) その他： ・ ISO/TC34/SC16 総会ポスト WS について： 5 月 16 日開催 第 1 回企画委員会について報告。</p>
7, 8 月	<p>1. 2019 年度 第 4 回目会議を 8 月 8 日に開催 (1) ERA プロジェクト調査報告書 第 45 号を 7 月発刊、ERA プロジェクト調査報告</p>

	<p>第 46 号の勉強会：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。</li> </ul> <p>(2) GM 微生物食品について：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3/18 「組換え微生物を用いた高度に精製された添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方について」ワークショップ報告書執筆状況について共有化。イルシー誌 No.139 号に掲載。</li> </ul> <p>(3) GM 作物について：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ISBR2019 (タラゴナ、スペイン) 及び本会議後に開催されたワークショップ派遣者報告書について： 報告書を ERA 特別号としてを ERA 第 45 号と同時に発行。</li> <li>・ 昨年 11 月 7 日開催の「遺伝子組換え植物の生物多様性影響評価に関する公開ワークショップ-隔離ほ場試験のデータトランスポートビリティに関する考察」がイルシー誌 No.139 号に掲載された。</li> <li>・ 筑波大学、小口太一、菊池彰、渡邊和男先生による「わが国の学術目的での遺伝子組換え植物の第一種使用規定の承認審査の変遷：申請者の視点による評価」がイルシー誌 No.139 号に掲載された。</li> </ul> <p>(4) その他：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ISO/TC34/SC16 総会ポスト WS について： 7 月 30 日開催 第 2 回企画委員会について報告。</li> </ul> <p>2. ゲノム編集技術に関する内部勉強会を ILSI Japan 会議室にて開催： 日時：8 月 8 日木曜日 15:30～17:30 演者：農業・食品産業技術総合研究機構生物機能利用研究部門 遺伝子利用基盤研究領域 先進作物ゲノム改変ユニット 主任研究員 遠藤真咲先生 参加人数：19 人 内容：① SDN-2, 3 の分子機構 ② ガイド RNA の設計法 ③ ゲノム編集作物の開発状況 の 3 演題を通じ、ゲノム編集の技術の基礎から日本・世界の開発状況について講演いただいた。</p>
9, 10 月	<p>1. 2019 年度 第 5 回目会議を 10 月 31 日に開催</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告書 第 46 号を 10 月発刊、ERA プロジェクト調査報告 第 47 号の勉強会：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。</li> </ul> <p>(2) ISO/TC34/SC16 総会ポスト WS (11/22 開催予定)について：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10 月 28 日開催 第 3 回企画委員会について報告。 当日の運営補助についても議論。</li> </ul> <p>(3) アドバイザリー委員選任について：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 横浜国立大学大学院環境情報学府環境遺伝子工学研究分野 平塚和之先生が選任された。</li> </ul> <p>(4) その他 来年度活動等について議論。</p>
11, 12 月	<p>1. ISO/TC34/SC16 総会ポスト WS —遺伝子組換え食品 表示制度の動向と検査法の品質管理 を 2019 年 11 月 23 日 に開催。</p>

会場：アイビーホール (IVY HALL) 3階「ナルド」

参加者：産官学計 115名

プログラム

#### Session I

- Michael Sussman  
(USDA-AMS, ISO/TC34/SC16 委員会マネージャー)  
“*Bioengineered Food Disclosure 101*”
- Raymond Shillito (BASF Corporation, ISO/TC34/SC16 議長)  
“*SC16 activities, and GM testing in supply chain & its quality control in US*”
- 蓮見由香 (消費者庁食品表示規格課)  
“*遺伝子組換え表示制度について*”

#### Session II

- 近藤一成 (国立医薬品食品衛生研究所)  
“*日本における遺伝子組換え食品検査法*”
- 橘田和美 (農研機構 食品研究部門)  
“*GM 検査における標準物質*”

#### Session II

- Marco Mazzara (EC Joint Research Centre)  
“*GM Testing harmonization in EU*”
- Lutz Grohmann (BVL, CEN/TC275/WG11 座長 )  
“*Official GM Testing & its quality control in an EU member state (Germany)*”

★一部当日資料は ILSI Japan ウェブサイトに掲載

<http://www.ilsijapan.org/ILSIJapan/LEC/biotech/GMO201911.php>

2. 2019 年度 第 6 回目会議を 12 月 13 日に開催

(1) ERA プロジェクト調査報告書 第 47 号を 12 月発刊、ERA プロジェクト調査報告 第 48 号の勉強会：

- 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。

(2) 部会長会議について

11 月 7 日に開催された部会長会議について報告。

(3) 隔離ほ場試験データトランスポートビリティについて

これまでの議論の振り返り、論点整理、意見交換する良い機会であるため、現在投稿中のダイズ論文が掲載された後には WS を開催することが提案され、承認された。

(4) 2020 年度活動計画、助成金申請について：

来年度の助成金承認見込みについて共有。正式決定され次第事務局または部会長よりメンバーに連絡。

(5) 会計報告、その他

- ERA 報告書について、450 号に達したので集約版を作成することが提案され、承認された。昨年 3 月、8 月の特別号を巻末に付録として挿入する予定。